

株式会社ワーク・ライフバランス 行動計画

I. 計画期間

2019年4月1日～2021年3月31日

II. 当社の課題

1. より良い働き方に合った生産性を模索し、ライフ(私生活)を含めサステイナブルな働き方を追求し続ける仕組みを構築する。

【背景説明】社会に生産性の高い働き方を推奨するため、自らが率先して生産性を高め続けるのが当社の文化である。

一方で、育児、介護に限らずライフの事情は様々であり、時間制約の幅もそれぞれ異なるため、一律の仕組みを整えるより、個別の事情に応じた時間のコントロールがそれぞれの判断でできることによるメリットも大きくなってきている。

また、生産性の高さを追求するあまり、余裕から生まれる新たなアイデアをないがしろにすることがないよう認識を揃えることで、社会に新しい価値を提供する役割を果たしていきたい。

2. オフィスを打ち合わせ場所として使うケースや、個人の執務スペースとして使うケースが同時に存在した場合でも、お互いの生産性に配慮した執務環境を構築する。

【背景説明】限られたオフィス空間の中で、各自の打合せや作業を相互に配慮できるようにしたいという要望が高まっていた。オフィス空間のコンサルタントと共に、空間を効果的に活用できるようにオフィスを設計し、改造する。具体的には、個人ワークスペース、集中ブース、スタンディングワークスペースを新設して個別ワークスペースを活用しつつ、社内のコミュニケーションを円滑にするためのコワーキングスペースを増設する。

3. 在宅勤務やモバイルワークのため携帯性の高いノートパソコンを使用しているが、在宅時にはより大きな画面で業務を進めたり、モバイルワーク時には遮音性の高いイヤホンマイクを使用するなど個人の状況に合わせてより生産性の高い状態を作る。

また、危機管理のためにも、全員在宅でも全社会議がしやすい状態を作る。

【背景説明】在宅勤務の質を高めたい高めたいという社内の要望が高まっていた。

4. 旅行・帰省の際、一部外せない業務の予定があっても出先で業務を行えるようにすることで滞在期間を延ばすことができ、さらなるライフの時間の充実を図ることができるようになるという新たな選択肢を社員に提示する。それによって社員満足度を高める。

【背景説明】全国に出張する機会を利用してその土地を楽しんだり、まとまった休みによるライフの時間でのインプットを重視していきたいと考えている。一方、会社としてどこでも働ける環境を作ることは、時間の自己管理ができない場合どこでも働いてしまい、働かせすぎるというリスクがある。そのため滞在先では、行いたいライフの予定を最重要視し、労働によってそれらが犠牲にならないよう、本人の自己管理が徹底されているかつ同僚や会社側が労働量を調整できる場合のみ業務を行ってよいものとし、まずはトライアルができる状態を作ることとした。

III. 目標と取組内容・実施時期

目標1. より生産性高い働き方をするために、業務関連の調べものに加え、自己研鑽やリフレッシュ、休養等にも自由に使える時間を有給で確保する。

目標2. 「オフィスで働くとし生産性が上がるよね」と思えるオフィス環境を整える

目標3. モニターや音声機器を整備して、より生産性高く在宅勤務やモバイルワークできる環境を整える。

(数値目標:全社員が年1回以上在宅勤務またはモバイルワークを実施する)

目標4. 朝メール・夜メールによる時間と業務の自己管理を行い、特に滞在先で業務を行う場合には本人・同僚が業務を入れすぎないように配慮できる状態を構築する。

<取組内容>

1. 平成31年4月～ 『新しい休み』をトライアル導入する

時間単位で取得可能な月3日分の『新しい休み』を導入し、社員がワークとライフの都合に併せて、自由に取得できるようにする。

2. 平成31年5月～ オフィスの改装工事を実施する。

・集中スペースを作る。

・ストレスなくWEB会議を実施できる環境を整備する。

3. 平成31年4月～ 各々が必要な在宅勤務環境改善資金として、在宅勤務支援金(1人2万円上限)を支給する。

4. 平成31年度～ 朝メール・夜メールの入力を徹底し、業務量と時間の調整を図ることで、旅行・帰省先で業務を行うことができるようにする。実施対象者は実施内容を振り返り、会社にフィードバックする。

以上